

第3回大和郡山市子ども・子育て会議
議事録

日時：令和元年11月29日（木） 14：00～

場所：大和郡山市役所 中央公民館2階研修室2

1. 開 会

2. 議 題

- ①計画素案の検討について
- ②目標量の確保方策の検討について
- ③その他

3. 閉 会

1. 開会

事務局

令和元年度第3回大和郡山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日はご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。私、こども福祉課の北浦です。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

郵送させていただいた資料として、

- ・子ども・子育て支援事業計画（第二期）素案

本日机上配布した資料として、

- ・次第
- ・座席表
- ・大和郡山市子ども・子育て会議の傍聴に関する基準

以上になります。皆さまお持ちでいらっしゃいますでしょうか。

本日は10名の委員の参加となり、過半数以上の方にご出席いただいておりますので、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第2項にもとづきまして、会議が成立する旨をご報告させていただきます。なお、勝川委員はご欠席の旨をご連絡いただいております。上田委員は、他の公務のため欠席させていただいております。ご了承願います。また、10月1日付の人事異動で、事務局こども福祉課の課長補佐が藤原から上谷に代わりましたのでご紹介します。本日もご出席いただいております委員の皆さま及び事務局につきましては、お手元の座席表でご確認願います。また、今回も次期第2期計画の策定業務を委託いたしております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所内藤も同席し、ご説明いたします。

この会議は公開で開催させていただいております。本日傍聴ご希望の方はいらっしゃいません。開会にあたり会長からのご挨拶をいただきたいと思っております。

これからの議事につきましては、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第1項にもとづき会長のもとで進めさせていただきます。生田会長、よろしく願いいたします。

生田会長

皆さま、こんにちは。11月も終わりに近づき、朝晩はすごく寒くなりました。11月、12月は奈良県にとって、とてもいい紅葉の季節になってきたと思います。皆さまにつきましては、慌ただしい季節になりましたが、子ども・子育て会議にご参加いただき、お礼申し

上げます。

10月から幼児教育・保育の無償化が始まりましたが、3～5歳が無償化になったことで入園が厳しくなるかもしれないという不安から早めに見学しているという、保護者の話を聞きました。

本日は、各分野の所から集まっている皆さまが持っておられる情報を共有し、ご意見をお聞きしながら、計画の素案、目標量の確保方策を検証・検討していきたいと思っております。

本日の会議も、皆さまのご意見を聞きながら、しっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

2. 議題

① 計画素案の検討について

生田会長

それでは、次第に沿いながら進めてまいります。

まず、議題①「計画素案の検討について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局より、前回からの変更・訂正部分の説明)

(ジャパン総研より、計画素案に基づき、第4章「施策の具体的な展開」について説明)

生田会長

ありがとうございます。事務局からは、変更点や追記の内容、ジャパン総研からは第4章についての説明がありました。ご質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。

私から1つ、文言についてです。第4章に「保育士」という言葉が出てきます。保育士に関連するところであればそのままいいと思いますが、保育園、幼稚園、こども園の3つの施設に関連する項目であれば、そのすべてが総称としてあたる「保育者」という言葉のほうが適切だと思いますので、ご検討いただければと思います。

前回、ざっと1～3章の部分を見ていただき、ご意見を頂いて、文言等の修正がございました。第4章についても、特にご意見等ございましたら、このまま進めさせていただきますが、いかがでしょうか。

吉野委員

調査結果について、公園や遊び場が非常に少ないとか、屋内での遊び場が少ないという回答がいろいろなところから出てきていますが、これは今後、市として計画を立てていくときに、基にされるための調査でしょうか。これだけたくさんの、子育ての情報が集まっていますから、そのために調査されているのでしょうか。

ジャパン総研

59 ページの 21 番「親子のための遊び場や施設の整備」が、維持管理・更新や、親子で外出を楽しむことができるように施設へのベビールーム、コーナーなどの設置の促進を図るところになっています。今の状況としては、こちらに書かせていただいております。

生田会長

毎年度されていて継続となっているのですけれども、拡充に近い継続として受け止めてもよろしいでしょうか。

ジャパン総研

はい。

生田会長

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

会議終了後、もし何か疑問に残るところやご質問がございましたら、事務局まで問い合わせただけたらと思います。

次の議題に進めさせていただきます。②について、ご説明をお願いします。

② 目標量の確保方策の検討について

事務局

(ジャパン総研より、第5章「事業の実施目標」について説明)

生田会長

ありがとうございます。「目標量の確保方策」について、ご説明がございました。ご質問・ご意見等ございましたら、よろしく申し上げます。

米田委員

量の見込みについて、実績でファミリー・サポート・センター事業は、平成 27 年度～30 年度は増えていますが、確保の考え方としては減っています。これは当然、出生率などの数が減っているからですか。

ジャパン総研

計算方法としては、まず、平成 27～30 年度までの、対象となる子どもに対して、どれくらいの方が利用されているかという、利用している割合を出します。そして、利用している割合と今後の人口を掛け合わせるので、人口が減ると量の見込みも減ることになります。

米田委員

現場にいるものとして、ファミリー・サポート・センターにしても、病児病後児保育にしても、0 歳児保育にしても、ニーズはとて多くなっているのが現実です。

保育の無償化によって希望が多くなってくる。希望が多くなるということは、保護者がお仕事をする。仕事をする人が増えてくると、もちろん学童保育事業も増えてきます。現実、大きなお部屋があるにもかかわらず 20 人くらい増えているので、用務員さんのお部屋を改造して 1 年生だけの部屋を増やしていました。

子どもは着実に減っているが、ニーズは増えているのが現実ですし、虐待もとどまることを知らないというくらい、だんだん増加している中で、子どもたちの未来のために、増えることを見込んで充実していかなければいけないと感じます。

この数字での量の確保というのは、すごく不安を感じるので、今、おっしゃった計算方法で物理的に計算して数字が出ているけれども、疑問が残るということをおっしゃっていただきました。

生田会長

ありがとうございます。確保の考え方のところで、「市内 1 か所で実施し、量の見込みを確保します」とありますけれども、平成 30 年度、令和元年度は 1 か所で対応ができていますか、状況としてはいかがでしょうか。

副会長

ファミリー・サポート・センター事業をやっていますが、今おっしゃったように、子どもたちが少なくなって、件数が減っている状況はこのとおりだと思います。実際、郡山市

においては、保育園・こども園・幼稚園の待機児童はほとんどなく、お母さんの何かの用事をお願いする件数が大部分です。

ファミリー・サポート・センター自体の運営は、設置して11年たち、高齢化等でサポーターが少なくなっている状況です。サポーターをしてくれる方を募集するけれども、単価的に安いこともあり、広報紙にも出すけれども応募がありません。運営状況も日々悪くなっており、そこに子どもさんもあまり来られません。ただ、増えているのはひとり親家庭で、お仕事の関係で帰りが遅くなると迎えに行けない場合が非常に多くなっています。今後、ひとり親家庭が増えていく状況にあっては、その部分だけが増加していくかなという懸念はあります。

生田会長

利用ケースは増えているけれども、内容が託児ではなく、お迎えになっているので、その需要に対しては、今の状況でしっかり対応できているということですね。利用形態の内容がすべて一緒になっているので分かりにくくなっていると思います。今、頂いたご意見を参考に、文章とかの補足等で対応できるのであればしていただいて、誰が見ても分かるようにしていただければと思います。

ほか、いかがでしょうか。

森田委員

81 ページの(4)「地域子育て支援拠点事業」について、平成30年度実績は3,032人に対して、確保の考え方で、既に量の見込みが少なくなっていますが、これは問題はないのでしょうか。令和2年度はなぜマイナスになっているのですか。

ジャパン総研

先ほど申し上げた計算にはなります。人口が減っていくにつれて減るということで、平成30年度から令和2年度は減ってしまうので、マイナスからのスタートという関係性になっています。

生田会長

人口がベースになるので、その辺りが難しいと思います。ニーズに対しての対応はできているということで、よろしいでしょうか。

事務局

これで不足しているとは思えない状況です。

生田会長

こちらにつきましては、現状のニーズについては対応できているということですね。その辺りもうまく説明できればいいと思います。

森田委員

もう1つ質問です。第4章の中で新規の子ども家庭総合支援拠点設置や人材の確保という文言がたくさん出てきているのですが、何か具体的な案があつてのことでしょうか。先ほど言われたように、募集をかけても応募がないということがあります。まだ素案の段階なので、どこから人を集めてくるとかカウンセラーの問題など、全くまっ白な状態ですか。

事務局

今後5年間の計画になりますので、今は具体的になくとも年を追って、ここまで上げていく内容となります。

森田委員

57 ページの子ども家庭総合支援拠点の設置となると、設置するためには人材が要るだろうとか、いろいろなところで人材の確保が大変ではないかと単純な感想を持ちました。

事務局

子ども家庭総合支援拠点の設置は、児童福祉・母子福祉の体制の見直しも含まれるので、必ずしも人材を新たにプラスしなければならないというだけのものではないです。

生田会長

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、②「目標量の確保方策」については、以上とさせていただきます。次に③「その他」につきまして、事務局より何かございますか。

③ その他

事務局

当市の認可保育園、認定こども園における今後の動きについて、ご報告いたします。まず、公立園についてですが、現在（仮称）平和認定こども園の建設を進めており、施工業者を入札にて決定したところでございます。当市の12月議会に議案として上程し、承認を頂いた上で正式決定となります。開園は令和3年4月の予定でございます。

次に、民立園についてですが、令和元年10月に社会福祉法人郡山双葉会が運営する「やまとこども園」の分園が定員45名で高田町に開園し、令和2年4月には定員15名増の60名となる予定です。また、令和2年4月には、現在大和郡山市社会福祉協議会が運営しております昭和保育園を社会福祉法人郡山双葉会へ運営移管したうえで、認定こども園へ移行し、15名の定員増を予定されております。また、同じく令和2年4月に、社会福祉法人奈良社会福祉院が運営しております郡山西保育園の建て替えが完了し、定員が180名から210名へ30名増となります。また、同法人が運営しております郡山東保育園についても、令和2年4月に、認定こども園へ移行し、9名の定員増を予定されております。

また、今後、社会福祉法人あけぼの会が運営しております「いずみ保育園」が現在の泉原町から九条町へ移転したうえで、認定こども園として開園、そして、学校法人カトリック・マリスト会学園が運営しております大和郡山カトリック幼稚園が建物の改築を実施したうえで、認定こども園への移行を予定されております。

当市における待機児童の解消及び保護者の保育ニーズへの多様化に对应していくためにも、定員の増加とともに、保護者の就労状況に関係なく通園できる認定こども園について、今後も検討してまいりたいと考えております。

生田会長

今説明いただきました内容につきまして、ご質問・ご意見等ございましたら、よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。

それでは、これで全ての議題が終了しました。会議終了後、何か気付かれた点などございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。よろしくお願ひします。

次回の子ども・子育て会議の日程については、年明け後でよろしいですか。

事務局

当初、12月に1回予定させていただいておりましたが、12月の会議はこの素案を基に、皆様から頂いたご意見を整理して、改めてお見せするためのものという位置付けでしたの

で、12月の開催は省略させていただき、中身の確認等は郵送等で皆さまにご確認いただく形を取り、年明けのパブコメの段階でさせていただきたいと思っておりますが、ご了解いただけますでしょうか。

<一同了解>

生田会長

それでは、年明けの日程が決まりましたら、事務局よりお知らせさせていただきたいと思えます。

これで全ての報告が終了しましたので、司会を事務局に戻させていただきます。

3. 閉会

事務局

皆さまには、慎重なご審議、ご意見など頂きまして、大変ありがとうございました。内容につきましては、後日、市公式ホームページに掲載させていただく予定です。

なお、先ほども申しましたとおり、次回は年明けの開催となります。その前に、本日の素案を基に、検討した内容を、皆さまにご覧いただけるようにしたいと思います。それをご覧いただきまして、さらにご意見等あれば、どのようなことでも頂きたいと思っております。次回の会議日程が決まりましたら、皆さまにお知らせいたします。その際は、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、皆さまどうもありがとうございました。